

◆「保育者の援助は、その時の状況に合わせながら行います」

- * パンフレットP1「友達と気持ちを合わせて積み木を運んでいる場面」では、幼児期までに育ってほしい姿（10の姿）（1）「健康な心と体」（3）「協同性」の2つが育まれていくと考えられますが、もしその時に、子どもたちの違う動きがあったり、会話が聞かれたりしたら、同じように見える場面でも他の「10の姿」とつながることもあるのです。製作などの、いろいろな遊びの場面でも同じです。



【一人で運べない子を見ていた子が、「私手伝う。運ぶよ!」と、気持ちよく行動する姿が見られたとき】



この場合は、(4)「道徳性・規範意識の芽生え」の育ちも見られます。
・周りの友達の気持ちを読み取って、動く力を育てるために、認める声かけをしています。

【自分の思いを伝えにくい子に対して、「誰か手伝ってほしい。」と伝え、自分から話そうという気持ちがもてるように援助する。気持ちはありそうだけれど、恥ずかしくて言葉にはまだ出しにくい子なので、「〇〇さん、助けてくれる?」と、声をかけると「いいよ」と返事があってきたとき】



この場合は、(9)「言葉による伝えあい」の育ちも見られます。
・先生が困っているから、手伝おうという気持ちになり、言葉で伝える機会となっています。言葉で伝えにくい子に対しては、無理に話させようとするのではなく、一緒に積み木を運んでくれたことを認めるようにしています。

【やりたいことが最後まで取り組めるようになってほしいとき】

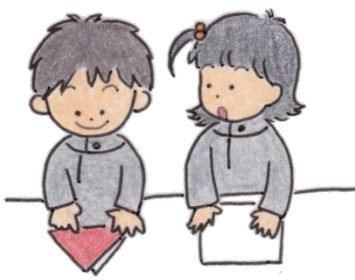


先生は、遊んでいる子どもやその他の子どもたちの様子をよく見て、何が必要な援助かを考えていくのか!なるほどー!



この場合は、(2)「自立心」の育ちも見られます。
・最後まで作り上げる喜びを感じられるよう、一人一人の今の姿にに応じて助言をしています。見守りながらも、時には部分的に補助をする等の援助をする場合もあります。「自分でできた。」といううれしさを感じられるようにしています。

【友達同士をつなげられるようにしたいとき】



この場合は、(9)「言葉による伝えあい」の育ちも見られます。
・様子を見ながら、友達同士で教え合うことができています。自分から「教えて。」と伝えたり、友達の様子を見ながら「教えてあげるよ。」と伝え合う姿を認めています。